

ページ

新・宮城の将来ビジョンシリーズ

2 PROGRESS ~ともに創ろう、躍進する宮城の未来~
Antler Crafts(アントラークラフツ) (石巻市)

特集1

4 2024年 秋・冬観光キャンペーン
しみる、わたる、みやぎ

特集2

6 一人一人が健康になるためのプラン

県政ニュース

8 みやぎ環境税
みやぎの豊かな環境を守り次の世代へ引き継いでいこう

県政ニュース

10 宮城県産業廃棄物税
循環型社会の実現に向けて

県政ニュース

12 あれって虐待かも、と思ったら？
子育てがづらいときには？

県政ニュース

13 第48回全国育樹祭 1年前イベント
国民参加の森林づくりシンポジウム

県政ニュース

14 「みやぎ型管理運営方式」
これからも安全・安心な水をお届けするために

15 おいしいものがたくさん!
まんぷくみやぎ

16 7つの地域から虹メール

18 お出かけガイド

20 みやぎのふるさと通信(多賀城市・東松島市)

21 県立施設インフォメーション

22 県からのお知らせ

みやぎの人口(令和6年8月末現在)

住民基本台帳人口/2,230,013人(前年同月比-16,609人)	
男/1,087,268人	女/1,142,745人
世帯数/1,051,661世帯(前年同月比+8,368世帯)	

宮城県は、令和6年能登半島地震の被災地の復興・復興を応援します。



今号の表紙
自然と共に生きる小野寺さんと猟犬のまつきち

石巻市の牡鹿半島で、「食猟師」として「Antler Crafts」を運営する小野寺さんとその活動を支える猟犬の「まつきち」です。取材時、小野寺さんから多くの貴重なお話をいただき、豊かな自然と共生したライフスタイルを大切にしている思いを感じました。

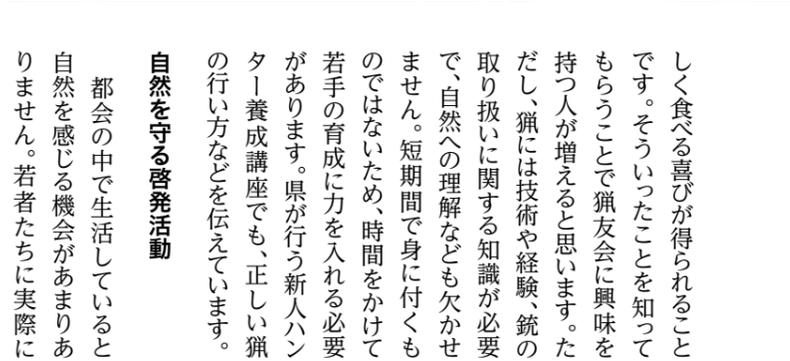
新・宮城の将来
ビジョンシリーズ
PROGRESS
ともに創ろう、躍進する宮城の未来

第19回

自然の恵みを守り、
命の循環を未来へつなぐ

Antler Crafts(アントラークラフツ)
(シカ猟師・シカ肉解体処理施設運営者)
(石巻市)

本シリーズでは、県政運営の基本指針「新・宮城の将来ビジョン」において重要な視点として位置付けている「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、各分野で魅力ある活動に取り組みする内の企業・団体などを紹介しています。



【写真の説明】1 シカ肉解体処理施設 2 丁寧に加工されたシカ肉を調理している様子 3 県産の食材などを使ったシカ肉のソーセージ。ウェブサイトで購入できる 4 仙台南で開催された「山の肉と大地のフェス」でのシンポジウムの様子

牡鹿半島の自然と向き合い、「食猟師」として自然の恵みの食し方や野生生物の持続可能な守り方などを伝える「Antler Crafts」の小野寺望さん。活動内容やその思いについて取材しました。

子どもの頃から叔父が捕ってきたカモやキジなどの肉を食べてきたこともあり、自然の恵みを身近に感じていました。命を無駄なく、おいしく食べることをコンセプトに始めた狩猟ですが、シカの有害駆除の活動が多くなるにつれ、シカが人間側の都合により命を奪われ、捨てられている状況に疑問を持つようになりしました。葛藤する日々

— シカ猟師としてジビエの加工販売を始めた経緯は？

— どんな活動をしているの？

— ジビエの加工販売

— 今後の展望は？

— 自然を守る啓発活動

を過ごす中で、その落としどころとなったのが、リボンアートフェスティバルをきっかけに誕生した、シカ肉解体処理施設です。自然の中で獲たものを、多くの人が喜ぶ食材として丁寧によみがえらせ、おいしく食べさせていただくことで、駆除されるだけだったシカの命を少しでも循環させたいという思いで活動しています。

有害駆除活動などを通じて獲たシカを解体処理施設でジビエとして加工し、販売しています。鮮度を維持し、食肉として加工するには、適切な処理が必要です。一カ月程度寝かせ、ゆっくり水分を抜くこと

ほしいという思いから、都内の学生などを迎え入れ、自然の中での活動やシカの解体などを体験できる機会を提供しています。また、親子向けの食育のワークショップの実施やさまざまなシンポジウムなどで環境保全や自然と共に生きる未来などについて、意見を発信しています。

みんながルールを守りながら森に入って、生き物や植物を採取し、それを有効活用している世の中になってほしいです。野生食材が当たり前になり、食卓に並び、自然の命が循環する世の中になれば素晴らしいことだと思っています。そのため、自分たちができること



Antler Crafts代表
小野寺 望さん

は、活動を通して、自然の現状をコソコソと社会に訴えかけ、豊かな自然を将来に残していくことだと思っています。その活動の中で、私の考えに賛同してくれる若い人たちが、自然とうまく向き合うすべを知り、活動などを継承してくれたいと思います。

知事コラム
村井が走る



デジタル身分証アプリ
「ポケットサイン」の利用登録を!

県はマイナンバーカードをスマートフォンに取り込んで活用する「ポケットサイン」というアプリを使って、県民の皆さんと県や市町村が直接意思疎通できる仕組みを構築しました。まさに本県のDX(デジタル・トランスフォーメーション)を牽引するアプリです。このアプリはマイナンバーカードの基本4情報(氏名、住所、生年月日、性別)を瞬時にスマートフォンに取り込み活用します。県民の皆さんは、アプリのインストールと簡単な登録だけで、煩わしい手続きなしに県や市町村からの情報入手

できるようになり、行政側も県民の皆さんのお考えを直接お聞きすること(アンケート)が可能になります。また、このアプリの特徴は基本4情報と紐づいたミニアプリを次々に追加できることにあります。すでに「アンケート」や、道路や河川の異常を直接通報していただく「インフラ異常箇所通報」、健康増進のための「みやぎ健康ウォーク」といったミニアプリが稼働しています。そして、今月からは県内での買い物に利用できる「みやぎポイント」および「自然災害避難支援」アプリを全県導入します。東日本大震災の際は県民の皆さんがどこに居て、何を求めておられるのか全く分からず、その把握が困難を極めました。この「自然災害避難支援」アプリが普及すると、次に来る大規模災害時に大きな効果を発揮します。この機会に「ポケットサイン」を多くの方々にご利用登録いただきますようお願い申し上げます。

宮城県知事 村井 嘉浩